

2 歴史的景観資源の価値を知る

1

歴史的景観資源を知ろう

歴史的景観資源は、建物自体の建築年代が古く、建築様式に時代の特徴があることはもちろん、地域の歴史と密接に関わっていたり、暮らしの文化を物語っているなど、様々な価値を持っています。

このような様々な価値は、以下のような視点から読み取ることができます。

● 歴史的価値

● 地域的価値

● 文化・芸術的価値

● 環境的価値

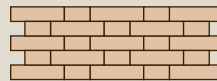
● 活用価値

● 思い出価値

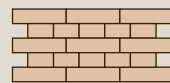
歴史的景観資源のみどころ

れんがの積み方もいろいろ

札幌市内には「赤れんが庁舎」として親しまれている北海道庁旧本庁舎や、札幌製糖会社の工場であったサッポロビール博物館など、れんが造りの建物が数多く残っています。「赤れんが庁舎」は、白石村（現在の白石区）を中心に、豊平村や月寒村（現在の豊平区）などで製造された約250万個のれんがでできており、国内でも比較的珍しいフランス積み（れんがの長手と小口を交互に並べた積み方）でつくられています。



フランス積み



イギリス積み



アメリカ積み



ドイツ積み



長手積み



1



2



3



4



5



6



7



8



9

1. 旧小熊邸 2. 時計台 3. サッポロビール博物館・ビール園 4. 日本基督教団札幌教会 5. 旧市民会館前のハルニレ 6. 知事公館
7. 三誠ビル 8. 杉野目邸 9. 札幌聖ミカエル教会

歴史的景観資源のみどころ

厳しい気候に強い?! 下見板張り

札幌に残る木造建築の多くは外壁を「下見板張り」で仕上げています。

これは「下見板」という横板を、下部から数センチメートルずつ重なるように張っていくもので、アメリカから移入された工法です。構造が単純で、雨仕舞も良いことから、開拓期の建築工法の主流でした。

時計台や豊平館がその代表格です。

